

# 令和3年度 行政評価調書

## ■ 施策の概要

(第7次総合計画 基本計画 P.128～129)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ4 生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち(生活基盤)		
施策名	4-5 市街地整備		
所管部	建設部	関係部	なし
この施策の 目指すべき姿と その展開方向	<p style="text-align: right;">(第7次総合計画 基本構想 P.42)</p> <p>歴史や豊かな自然環境との調和を基本として、人口減少や少子高齢化などの社会動向に対応し、安全・安心で快適な都市生活を持続可能とする、中心拠点と複数の地域拠点に都市機能が集約され、それらが交通ネットワークで結ばれた効率的なまちづくりを目指します。 このため、これまでに整備されてきた都市基盤を有効に活用しつつ、新しい都市機能の適正な配置と誘導を進め、新旧の調和した、活力ある市街地の再生を進めます。 また、今後予定される北海道新幹線の開通に向けて、北海道新幹線を活用した新たな魅力あるまちづくりを進めます。</p>		
市民アンケート 指標	中心部のにぎわいや商業・サービス機能に満足している市民の割合	基準値	目標値
		14.7%	基準値より増

## ■ 施策の内容(小施策)

(第7次総合計画 基本計画 P.128～129)

小施策 及び 指標	(1) 中心市街地の整備		基準値	目標値
	指標	中心市街地の歩行者通行量(年2回(1回当たり平日・休日の2日間)の調査値の合計)	25,590人	28,100人
	(2) 周辺市街地の整備		基準値	目標値
	指標	暮らしやすい環境が形成されていると感じている市民の割合	37.8%	基準値より増
	(3) 新幹線を活用したまちづくりの取組		基準値	目標値
	指標	北海道新幹線札幌延伸後に新幹線を利用してみたいと答えた市民の割合	43.3%	基準値より増

# 令和3年度 行政評価調書

## ■施策の評価(一次評価)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ4 生活基盤が充実した安全で暮らしやすいまち(生活基盤)					
施策名	4-5 市街地整備					
所管部	建設部	関係部	なし			
市民アンケート 指標	中心部のにぎわいや商業・サービス機能に満足している市民の割合	基準値	令和3年度	令和5年度	目標値	
		14.7%	14.9%		基準値より増	
市民アンケート 指標の推移	◎	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)				
各小施策の 指標の推移	指標		基準値	実績値	推移	目標値
	(1)	中心市街地の歩行者通行量(年2回(1回当たり平日・休日の2日間)の調査値)	25,590人	15,208人	△	28,100人
	(2)	暮らしやすい環境が形成されていると感じている市民の割合	37.8%	37.7%	△	基準値より増
	(3)	北海道新幹線札幌延伸後に新幹線を利用してみたいと答えた市民の割合	43.3%	44.5%	◎	基準値より増
指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)						
【一次評価】 達成度の向上 等へ向けた今 後の方向性	B-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う			
上記特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策に対する市民アンケート指標や、小施策(3)の指標については推移が順調であり、(2)の指標については基準値よりは若干下回っているものの、ほぼ基準値での推移となっているが、(1)の指標については新型コロナウイルスの影響もあり、指標の推移が不調である。</li> <li>・小施策(1)については、現状、新型コロナウイルスの影響が収まっていないこともあり、急速な指標の回復は困難と考えるが、小樽駅前周辺地区の再開発や、駅前広場の再整備といった中心市街地の機能や魅力向上の一助となる事業の取組は今後も継続していく。</li> </ul>					

## ■施策の評価(二次評価)

【二次評価】 達成度の向上 等へ向けた今 後の方向性	B-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う		
上記特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各指標の推移等は一次評価のとおりと考えるが、市民アンケート指標は依然として低水準であり、中心部のにぎわいや商業・サービス機能に満足している市民が少ない状況であることがうかがえる。</li> <li>○中心市街地の整備は、一定の時間を要するものであるが、北海道新幹線の開通が近づくにつれ、市街地整備に対する市民の関心が高まっていくことが考えられることから、相乗効果を意識した取組や市民と将来像を共有できるような周知・広報の方法について併せて検討すること。</li> </ul>				

# 令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (1) 中心市街地の整備

(第7次総合計画 基本計画 P.128)

指標	指標名		指標の基準年	基準値	目標値		
	中心市街地の歩行者通行量(年2回(1回当たり平日・休日の2日間)の調査値の合計)		平成30年	25,590人	28,100人		
年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		25,463人	15,208人				
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △)				
主な取組	<p>★小樽駅前周辺地区の再開発や駅前広場の再整備に当たっての整備手法の検討及び関係団体との調整(建設部新幹線・まちづくり推進室)</p> <p>○第2次小樽市都市計画マスタープランの策定と推進(建設部都市計画課)</p>						
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 小樽駅前広場整備推進経費(03557)		② 4,636 千円		③ 建設部新幹線・まちづくり推進室	
		④ 歩行者と車両が輻輳するJR小樽駅前広場の再整備に向け、再開発ビルとの連携を考慮した整備計画案の作成を目的とする。					
	⑤ 基本計画の策定に向けて「JR小樽駅前広場再整備基本計画策定調査業務」をR2年度に委託発注「JR小樽駅前広場再整備基本計画検討委員会」の開催 令和2年度 4回						
	2	① 中心市街地活性化推進経費		② 76 千円		③ 建設部新幹線・まちづくり推進室	
		④ 中心市街地の活性化により本市全体の活性化を図ることを目的とし、小樽駅前広場の再整備及び周辺地区の再開発等に向けた調査・検討や、土地区画整理事業の認可等に関する業務を行う。					
	⑤ ・再開発事業における再開発準備組合との調整(H30～R2) ・平成30年度: 研修会(再開発関係)への参加 ・令和元年度: 研修会・現地視察(再開発関係)への参加 ・令和2年度: 研修会、説明会への参加を予定していたが新型コロナウイルスの影響により中止						
	3	① 都市計画マスタープラン推進経費(02906)		② 1,665 千円		③ 建設部都市計画課	
		④ 都市計画に関連する方針を総合的に定め、本市が抱える都市計画の課題に対して柔軟に対応していくため、平成14年度に策定した都市マスについて見直しを行うため、平成30年度より改訂作業を進めている。					
	⑤ 令和2年4月 第2次小樽都市計画マスタープランの策定						
	4	① 立地適正化計画推進経費(03556)		② 64 千円		③ 建設部都市計画課	
		④ 中心拠点と複数の地域拠点に都市機能が集約され、それらが交通ネットワークで結ばれた効率的なまちづくりを目指す「立地適正化計画」の策定を目的とする。					
⑤ ・国費要望 ・研修会、説明会の参加を予定していたが新型コロナウイルスの影響により中止							
5	①		② 千円		③		
	④						
⑤							
6	①		② 千円		③		
	④						
⑤							
指標推移の要因等	・新型コロナウイルスの影響により歩行者交通量が大幅に下がったと考えられる。						
指標推移への対応	1	1: 各事業をこのまま継続して推進する 2: 予算事業等を改善しながら推進する 3: 予算事業等の内容の全面的な見直しを行う					
対応の内容	<p>&lt;対応の内容を箇条書きで記入&gt;</p> <p>・小樽駅前広場整備推進経費、中心市街地活性化推進経費について中心市街地の機能や魅力向上に向けて、駅前広場については今年度中に基本計画を策定し、再開発事業については再開発準備組合との調整を引き続き行っていく。</p> <p>・都市計画マスタープランにて、まちづくりの目標を示すことにより、都市計画に対する住民の理解を深め、都市計画決定や変更の指針とする。</p>						

# 令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (2) 周辺市街地の整備

(第7次総合計画 基本計画 P.129)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	暮らしやすい環境が形成されていると感 じている市民の割合		令和元年		37.8%	基準値より増		
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	37.8%		37.7%			
主な取組	<p>◎各地域における生活利便施設等の土地利用の実態などについて調査及び整備手法の検討(建設部都市計画課)</p> <p>◎地域拠点と地域公共交通網のあり方についての検討(建設部都市計画課)</p> <p>◎第2次小樽市都市計画マスタープランの策定と推進(建設部都市計画課)【再掲】</p>							
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 都市計画マスタープラン推進経費(02906)(再掲)		② 1,665 千円		③ 建設部都市計画課		
		④ 都市計画に関連する方針を総合的に定め、本市が抱える都市計画の課題に対して柔軟に対応していくため、平成14年度に策定した都市マスについて見直しを行うため、平成30年度より改訂作業を進めている。						
		⑤ 令和2年4月 第2次小樽都市計画マスタープランの策定						
	2	① 立地適正化計画推進経費(03556)(再掲)		② 64 千円		③ 建設部都市計画課		
		④ 中心拠点と複数の地域拠点に都市機能が集約され、それらが交通ネットワークで結ばれた効率的なまちづくりを目指す「立地適正化計画」の策定を目的とする。						
		⑤ ・国費要望 ・研修会、説明会の参加を予定していたが新型コロナウイルスの影響により中止						
	3	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	4	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	5	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	6	①		② 千円		③		
		④						
⑤								
指標推移の要因等	・主な取組について検討段階のものが多く、具体的な施策の実施は無かったため指標の上昇は無かった。							
指標推移への対応	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う						
対応の内容	<対応の内容を箇条書きで記入> ・立地適正化計画推進経費について、アンケート調査等を実施し、計画の策定に向けて検討を行っていく。 ・都市計画マスタープランにて、まちづくりの目標を示すことにより、都市計画に対する住民の理解を深め、都市計画決定や変更の指針とする。							

# 令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (3)新幹線を活用したまちづくりの取組

(第7次総合計画 基本計画 P.129)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	北海道新幹線札幌延伸後に新幹線を利用してみたいと答えた市民の割合		令和元年		43.3%	基準値より増		
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
			43.3%		44.5%			
指標推移	◎	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △)					
主な取組	<p>★北海道新幹線新小樽(仮称)駅の開業効果の波及に向けた官民連携によるアクションプランの推進(建設部新幹線・まちづくり推進室)</p> <p>○北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺の整備や関係機関と連携したアクセス道路の高質化など魅力あるまちづくりの推進(建設部新幹線・まちづくり推進室)</p> <p>○多様なツールを活用した新幹線に関する情報の発信や開業前イベントの開催などによる開業に向けた機運の醸成(建設部新幹線・まちづくり推進室)</p>							
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① (仮称)新幹線活用アクションプラン策定推進事業費(03641)		② 8,965 千円		③ 建設部・新幹線まちづくり推進室		
		④ 北海道新幹線新小樽(仮称)駅の開業効果を活用したまちづくりを進めるため、官民一体となってアクションプランを策定						
		⑤ 令和2年度…アクションプラン策定						
	2	① 北海道新幹線活用小樽まちづくり協議会関係経費(03320)		② 157 千円		③ 建設部・新幹線まちづくり推進室		
		④ 北海道新幹線新小樽(仮称)駅の開業を見据え、その効果を最大限活用したまちづくりのため設置する官民連携組織において駅周辺のまちづくりに関することのほか、2次交通対策、ソフト対策に関するものを検討						
		⑤ 会議の開催: 令和元年度…協議会2回、専門部会(観光・産業振興, まちなみ・交通アクセス)各1回 令和2年度…協議会3回、専門部会(観光・産業振興, まちなみ・交通アクセス)各3回						
	3	① 駅前広場の整備要望		② 予算なし 千円		③ 建設部・新幹線まちづくり推進室		
		④ 新小樽(仮称)駅を中心とする広域交通結節点の機能として、本道路(駅前広場)の整備について、北海道に対し事業実施の要望を行う						
		⑤ 後志総合開発期成会において道費要望: 年1回						
	4	① 電線地中化の要望		② 予算なし 千円		③ 建設部・新幹線まちづくり推進室		
		④ 新幹線駅周辺を魅力ある街並みとし、安全で快適に歩行できる空間確保のため、奥沢十字街から奥沢水源地までの国道及び道道の電線共同整備による無電柱化について、国及び道に対し事業実施の要望を行う						
		⑤ 後志総合開発期成会において道費要望: 年1回						
5	①		② 千円		③			
	④							
	⑤							
6	①		② 千円		③			
	④							
	⑤							
指標推移の要因等	令和12年度末の札幌延伸開業予定まで10年を切ったことや新青森-新函館北斗間が5周年を迎えたことにより、北海道新幹線に対する関心が若干高まったものと考えられる。 また、まちづくり協議会での検討内容等が報道されることで市民の目に触れる機会が増えていることも影響していると考えられる。							
指標推移への対応	1	1: 各事業をこのまま継続して推進する 2: 予算事業等を改善しながら推進する 3: 予算事業等の内容の全面的な見直しを行う						
対応の内容	<対応の内容を箇条書きで記入> ・北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画(平成28年度策定)及びおたる新幹線まちづくりアクションプラン(令和2年度策定)に基づく取組を推進 ・新小樽(仮称)駅の利便性向上に必要なとなる停車本数増加に向けて、効果的な施策を官民連携による戦略会議において重点的に検討 ・道及び国に対して継続して要望							